

Since 1976

横浜市立元石川小学校

令和2年7月31日



# 学校だより

## 8月号

Email y3motois@edu.city.yokohama.jp

横浜市青葉区美しが丘4-31-1

HP <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/motoishikawa/>

TEL 045(902)1821

### 残念を乗り越えて (人と人のつながりの力で)

校長 鈴木 彰

7月半ばのある日、3年生の担任が健診のために休みを取りました。子どもたちの「残念～」の思いを少しでも減らせないかなと、1時間、私も授業に入りました。内容は、国語の「俳句」。俳句とはなんぞや…などという難しい話は置いておき、『雨』をテーマに楽しく俳句を作ってみようよ」と、七月にちなむ言葉を教えて、みんなで一句ひねりました。教えたのは、こんな言葉です。

「酒涙雨(さいるいう)・・・七月七日の雨。七夕の日に雨で会えない織姫の涙(会った後の別れの涙という意味も)。

「洗車雨(せんしゃう)・・・七月六日の雨。七夕の前日に織姫に会うのを楽しみにして彦星が牛車を洗える。

「白雨(はくう)・・・地面を白く叩くほどの激しい雨。にわか雨。(明るい空から降る雨という意味も)

七夕の少しロマンチックな雰囲気を感じたようです。

「夕立」「大雨」「豪雨」など、元々知っている言葉を集めた後に、なかなか梅雨が明けない「残り梅雨」「戻り梅雨」「帰り梅雨」などの言葉も教えたりすると、初めて知った言葉を使いたいという子が多く、素敵な俳句をたくさん作っていました。また、別の日に隣のクラスでも同じ授業を行いました。



どちらのクラスでも、清書をした画用紙の裏に「家族の方の記入欄」を作り、「家族の誰かにほめてもらおうよ」と返しました。すると翌日、担任が「校長先生。保護者の方がこんなに書いてくれました」と俳句カードを嬉しそうに持ってきてくれました。読むと、驚くほどあたたかくて、優しくて、お子さんへの愛があふれている言葉の数々に出会いました。読んだ私も嬉しかったのですが、子どもたちはもっと嬉しかったことでしょう。

もともとは「残念」だったはずの出来事が、人と人とのつながりでこんなあたたかくなる様子を目の当たりにして、この厳しい社会の中でも心の通う取り組みは創れるのだと強く感じました。

「残念」なこととなったのは、修学旅行や西湖宿泊体験学習も同じです。子どもたちに寂しい思いをさせたので、保護者の方々からどんな言葉を受けても仕方ないと思っていました。しかし、来校した中学年の保護者の方が私に話したのは「先生の言葉に心を打たれました。子どもたちのことを思ってください、ありがとうございます」という言葉でした。また、高学年の保護者の方は「感動しました。今年だけの新しいプレミアムなプロジェクト、私にも手伝わせてください」という手紙を届けてくださいました。私は、拝むような気持ちで、その心に感謝しました。

秋の運動会も、例年通りにはできません。校庭の周囲に1200人も集める行事はできそうになく、「残念」という思いです。しかし、6年生の担任が子どもたちに話をしたら、ぱっと気持ちを切り替えて、「6年生が先頭に立って新しい今年だけの行事を創ろう」と話し合いを始めてくれたそうです。「残念」を乗り越えてそれ以上のものを創り出していこうとする姿は尊いものだと思います。

感染症拡大防止で様々な取り組みが残念になるたびに、世の中では、その出来事や人や組織を責める冷たい言葉が多く聞かれます。しかし、本校には「残念」をプラスに変える素晴らしい人と人のつながりの力がたくさんあります。私は、これが元石川の宝なのだと思います。感動しています。